

# 深江こどもクリニック インフルエンザワクチン問診票

(予防接種当日に太枠内の該当項目に記入、もしくは○で囲んでください。)

医療機関控

**※ 1回目と2回目の接種間隔は3週間以上あけてください!!**

住所			TEL			
フリガナ			男	生年	令和	年 月 日
受ける人の氏名			女	月日	(満 歳 か月)	
受ける人の生まれた時	体重	グラム	分娩：異常なし・異常あり ( )		保護者氏名	

質問事項	回答欄		医師記入欄	
0 今日受ける予防接種についての説明文を読んで理解しましたか。	はい	いいえ		
1 今日、お子さんは身体のぐあいの悪いところがありますか。それはどんな状態ですか。( )	はい	いいえ		
2 最近、1か月以内に病気やケガでお医者さんにかかりましたか。 病名( ) 時期( ~ )	はい	いいえ		
3 生まれてから今までに、先天性異常・心臓・腎臓・肝臓・脳神経の病気、免疫不全症、その他の病気、お医者さんにかかりましたか。 病名( ) 時期( ~ )	はい	いいえ		
その病気を診てもらっている主治医に今日の予防接種を受けてよといわれましたか。	はい	いいえ		
4 ひきつけ(けいれん)をおこしたことがありますか。回数( )、最後におこした時期( ) その時に熱はありましたか。( 度 分)	はい	いいえ		
5 くすりや食べ物で皮ふに発疹やじんましんが出たり、身体のぐあいが悪くなったことがありますか。	はい	いいえ		
たまご又はその加工品を食べて、皮ふに発疹が出たり、下痢をしたことがありますか。	はい	いいえ		
6 今までに保健福祉センターなどの乳幼児健診で健康上の注意を受けたことがありますか。	はい	いいえ		
7 4週間以内に何か予防接種を受けましたか。受けた予防接種の種類( )	はい	いいえ		
8 4週間以内に家族や遊び友だちに はしか・風しん・みずぼうそう・おたふくかぜなどの病気の人がいましたか。	はい	いいえ		
9 これまでに受けた予防接種で、身体のぐあいが悪くなったことがありますか。受けた予防接種の種類( )	はい	いいえ		
10 近親者の中で予防接種を受けてぐあいが悪くなった人がいますか。	はい	いいえ		
11 近親者の中で先天性免疫不全症と診断された人はいますか。	はい	いいえ		
12 6か月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの接種を受けましたか。	はい	いいえ		
13 その他お子さんのことや、今日の予防接種についてか質問がありますか。 具体的に( )	はい	いいえ		

医師記入欄	1回目体温：	2回目体温：
以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は( 実施できる ・ 見合わせた方がよい )と判断します。	℃	℃
保護者に対して、予防接種の効果・副反応及び医薬品医療機器総合機構法に基づく救済について説明しました。	<b>中村美奈子</b>	

14. 保護者記入欄	保護者サイン (フルネームで記入)
医師の診察と説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応の可能性に理解した上で、 接種することに( <b>同意します</b> ・ <b>同意しません</b> ) この予診票は、予防接種における安全性の確保を目的としています。提出いただきました予診票は、この目的以外には使用いたしません。	

1回目	2回目
シール	シール
右 ・ 左	右 ・ 左
所見	所見
接種年月日	接種年月日
令和5年 月 日	令和5年 月 日
備考	実施場所・医師氏名 深江こどもクリニック 中村美奈子



ワクチンで子どもを守る！

## インフルエンザワクチン

不活化ワクチン  
任意接種（子どもの場合）

### 📌 予防するVPD

インフルエンザ

### 📌 接種時期と接種回数

生後6か月以上で12歳まで（13歳未満）では2回ずつ接種します。10月ごろに1回目を接種し、およそ2～4週間（できれば4週間）あけて2回目を接種します。13歳以上は通常1回接種ですが、2回接種することもできます（接種間隔はおよそ1～4週間）。接種量は2011年シーズンから変更されて、特に小さい子どもの量が増えました。

### 📌 おすすめの受け方

インフルエンザは脳炎や肺炎をおこしやすい、普通のかぜとはまったく違う重いVPDです。小さな子どもの場合、1回の接種だけでは十分な免疫ができません。重症化を予防するのに必要な免疫ができるのは、2回目を接種して2週間ほどたったところからです。

毎年、流行するウイルスの型が違い、それに合わせてワクチンがつけられています。前のシーズンに接種していても予防効果は期待できませんので、原則として毎年、2回ずつ接種しましょう。

WHO（世界保健機関）や米国では、生後6か月～8歳まで（9歳未満）が初めて接種を受ける場合は2回接種ですが、翌年からは毎年1回の接種を続けるよう勧めています。9歳以上は初年度から毎年1回接種です。接種回数に関してはかかりつけ医とご相談ください。

### 📌 スケジュールを立てる時のポイント

流行前に2回接種が終わるように、1回目は10～11月、2回目は11月中に接種するのがおすすめです。

毎年、多くの小児科が10月前半から接種を開始します。予約方法などがほかのワクチンと異なる場合もありますので、あらかじめ問い合わせをしておきましょう。

### 📌 副反応

強い卵アレルギーの方はかかりつけの小児科医と相談してください。ごくまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などのアレルギー症状が現れることがあります。

### 📌 ワクチンの効果と安全性

予防効果はほかのワクチンと比べてそれほど高くなく、子どもの場合、A型では予防効果があるのは30～50%程度\*で、B型や1歳未満ではさらに効果が低くなります。しかし、2011年シーズンからはワクチンの接種量が増え、6か月以上3歳未満が大人の半量の0.25ml、3歳以上が大人と同じ、0.5mlになりましたので、昨シーズンよりも効果が期待できます。

インフルエンザワクチンは発病予防だけでなく、重症化予防として接種することをおすすめします。ワクチン接種によって発病や重症化が予防できるケースが多く、結果として脳炎の予防にもなります。まれには、流行しているウイルスの株とワクチンの株が違うなどで、接種を受けていても脳炎の発生を防ぎきれないこともあります。

また、妊娠中に母親が受けると生まれた赤ちゃんにも予防効果があります。

2011年シーズンから、ワクチンの接種量が増え、WHO（世界保健機関）の標準量を接種することとなり、予防効果の向上が期待できます。現在開発中の新型インフルエンザ用ワクチンの技術を応用するなどした、よりよいワクチンの開発が望まれますが、それが完成するまで、現在のワクチンを毎年受けてください。

\*インフルエンザワクチンを受けていないグループと受けたグループで、インフルエンザにかかった人数を比べたら、ワクチンを受けたグループの方が30～50%少ないという意味。

閉じる

